平成２８年度　各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	県北教育事務所	学校名	久慈市立長内中学校	ＴＥＬ	0194-53-3143

学習環境の向上にむけた学校体制の見直しと小・中連携

【今年度の目標】

（１）　県の正答率より１０％以上下回る問題数を０にする。

（２）　中２の数学では「事柄の説明」や「根拠を述べながらの説明」を重点指導項目とし、式や図などの表している数量を読み取り、ことばで表現することができる生徒の育成を目指す。

（３）　中２の英語では「表現すること」を重点指導項目とし、自信を持って表現できる生徒の育成を目指す。

（４）　質問紙調査「授業の内容がよく分かる」の肯定的回答の割合を、全教科７５％以上にする。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

Ⅰ　学校全体での授業改善・指導体制の構築

Ⅱ　組織的対応による諸調査結果の分析・活用

Ⅲ　小・中連携による三校交流体制の組織化

【具体的な取組】

Ⅰ　学校全体での授業改善・指導体制の構築

１　「わかる授業」の確立をめざして

・「学習課題（見通し）」「思考の場（時間）」「まとめ（振り返り）」を位置付ける。

・生徒に「わかった」「できた」という実感を与える工夫をする。

<評価カードの例>

「学習の振り返り」を毎時間記述することにより、「わかった」「できた」を実感できるようにさせた。

学習振り返りカード（第4章　平行と合同）

A:よくできた　B:できた　C:できなかった

回数	日にち	曜	2分前 ○か×	忘れ物 忘れた物を書く	聞く A・B・C	考える A・B・C	学習課題 A・B・C	わかったこと・よかったこと 授業の中で分かったことや良かったことを理由などを入れ文章で書くこと	点検
1	10/19	(月)	○	ない	A	A	A	平行線の内角の和の求め方を理解できたので良かったです。復習をしっかりしたいです。	
2	10/20	(木)	○	ない	A	A	A	角度の外角の和について考えることができたので良かったです。	
3	10/26	(水)	○	ない	A	A	A	3つの角を覚えることが大きたので良かったです。復習をしっかりしたいです。	
4	10/27	(木)	○	ない	A	A	A	平行線の同位角・錯角を理解することができたので良かったです。	
5	10/28	(金)	○	ない	A	A	A	証明の仕方を理解できたので良かったです。しっかり復習したいです。	
6	11/1	(火)	○	ない	A	A	A	内角・外角の和の証明を使った角の大きさを求めることが大きたので良かったです。	
7	11/4	(金)	○	ない	A	A	A	角の大きさを求める方法を理解できたので良かったです。	
8	11/7	(月)	○	ない	A	A	A	復習をすることができたので良かったです。	
9	11/8	(火)	○	ない	A	A	A	合同な図形について考えることができました。復習をしっかりしたいです。よかんぱ!!ですね。	
10	11/9	(水)	○	ない	A	A	A	三角形の合同条件を覚えることができたので良かったです。よくできました。危機感をもちましょう。	

<板書の例>

「学習課題」「生徒の思考」「まとめ」を明確に位置付けた構造的な板書を心がけた。

２　少人数指導等によるきめ細やかな指導の実践

２年生の指導改善を最優先し、数学の少人数指導、英語のティーム・ティーチングによる指導を学校として取り組んだ。

【数学科における少人数指導】

１学級３教師の配置とし、３教師とも数学の専科を配置できるよう時間割編成を行い、班をもとに

した少人数指導の分け方とした。T３の担当は、両教室を見回りながら補充的指導が必要な生徒への関わりを大切に対応した。

【英語科におけるティーム･ティーチング指導】

T２も英語の専科を配置できるよう時間割編制を行い、T２は机間指導をしながら、支援を必要な生徒への対応を主とした。小グループでのコミュニケーション活動や、問題演習の際は手分けをして個別に指導に当たったり、丸付けを行ったりした。

＜ティーム･ティーチングによる指導＞
随時、机間指導しながら、個別に支援する。

＜少人数指導＞
クラスの半分の人数なので、落ち着いて学習に取り組むことができる。

３　定期テスト前学習会の学年単位での実施

学年体制の中での学習の補充授業の実施を行った。定期テスト前に３時間を設定し、数学・英語の補充を中心に実施した。基礎、基本の定着を図ることを目的に、課題プリントを配布し、それに取り組むことを具体的な内容とした。学年の教員が１つの学級に複数配置する形で、個に応じた指導に対応できるように努めた。

II　組織的対応による諸調査結果の分析･活用

１　各教科における分析と指導の強化

学年担当の分析で終わらせず、教科部会で話し合いをもち分析をもとに学年ごとの目標を明確にし、実践につなげた。その際、参考にしたのが県から出されている「授業改善方策シート」で、英語に限らず５教科すべてでこの様式を参考にして、具体的な改善策を打ち出すようにした。教務主任が企画、準備を担当し、学校体制の中で進めるよう時間調整等を行った。

２　小・中連携による諸調査結果分析の共有化

今年度の中学校新入生学調の分析結果を長内小、小久慈小、長内中の教務部会で共有した。

６月２９日に行われた教務部会には、三校の教務主任と長内中の主幹教諭が参加し、新入生学調の結果と昨年度の諸調査結果を分析し、三校に共通した課題を明らかにした。特に、国語と算数･数学については、「読書活動の充実」（国語）と「授業改善の促進」（算数･数学）に共通して取り組むことを確認した。

本校の数学では、諸調査結果で落ち込んでいる内容を「２分前学習」に位置付け取り組んだ。

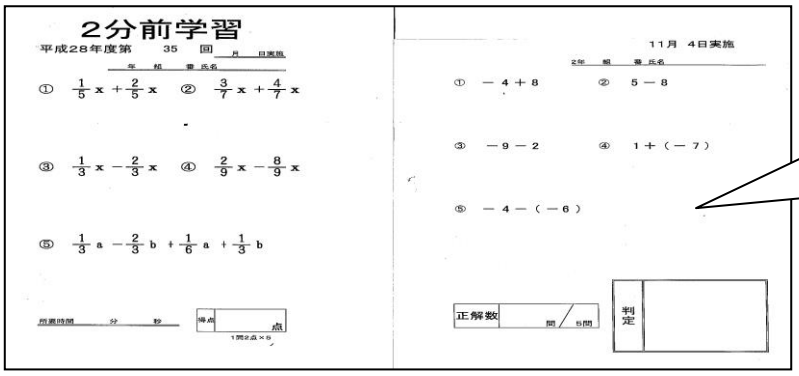
【国語】
・学習したことを活用し生活につなげることが不十分。
・本を読む力（文章をとらえる力）が不十分。
・速読する力が不十分。

読書活動の充実
読書のよさを実感させ、長文を読む機会を大切にしていく。朝読書の充実を図る。

【算数・数学】
・基本的な計算力が不十分で、基本的用語の理解が曖昧。
・面積や体積を求める活動で、実感・体感が不十分。
・説明意欲が乏しく、見通しをもてない傾向が強い。

授業改善の促進

掲示や復習の工夫を行い、思考する時間確保や言葉にする機会を積極的に設定。ドリル的な学習を仕組む。（２分前学習の活用）


２分前学習
平成28年度第　35　回　　月　日実施
年　組　番 氏名
① $\frac{1}{5}x+\frac{2}{5}x$　② $\frac{3}{7}x+\frac{4}{7}x$
③ $\frac{1}{3}x-\frac{2}{3}x$　④ $\frac{2}{9}x-\frac{8}{9}x$
⑤ $\frac{1}{3}a-\frac{2}{3}b+\frac{1}{6}a+\frac{1}{3}b$
所要時間　分　秒　得点　点　1問2点×5
11月 4日実施
2年　組　番 氏名
① －４＋８　② ５－８
③ －９－２　④ １＋（－７）
⑤ －４－（－６）
正解数　問／当問　判定

＜2分前学習の例＞

当該学年の内容に限らず、前学年までの問題を取り上げ、既習内容の復習の機会とした。

Ⅲ　小・中連携による三校交流体制の組織化

１　組織の強化

・本校にすべての児童が入学する小久慈小と長内小との「三校交流体制」を推進する。
・これまで検討を進めてきた年間活動について組織的なものとする。
・共通して取り組む事項を「学習指導部会」、「生徒指導部会」、「特別支援部会」のそれぞれの部会で設定し、年間での活動につなげる。
・長内中学校主幹教諭を調整役として、教務主任を核として円滑な交流になるよう組織を見直した。
・長期の活動を展望し、教務主任会議を意識的に開催し、話し合いを行った。

平成 28 年４月５日（火）
平成 29 年度以降の長内中学区小中連携事業の基本構想（案）

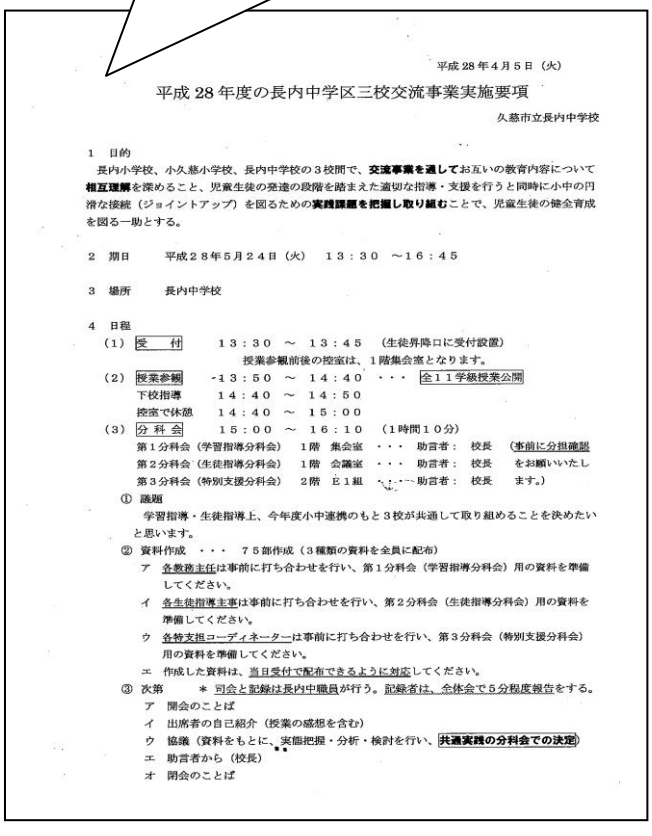
４月	第１回**小中連携推進委員会**（上旬） （１）昨年度の成果と課題の確認 （２）連携推進計画（案）の検討 （３）第１回授業公開（案）の検討	構成メンバー：　（１０名） 長内小校長、小久慈小校長、長内中校長 長内小副校長、小久慈副小校長、長内中副校長 長内中主幹 長内小教務主任、小久慈小教務主任、長内中教務主任
５月	**第１回授業公開（長内中で実施）**と**総会**（下旬） （１）**授業参観** （２）連携推進計画（案）の協議 （３）各校の年間計画の交流 （４）**第１回教科部会**	交流事業 １　合同あいさつ運動 ２　ノーメディアデー ３　長内中部活見学・授業見学等
６月	第１回**小中連携推進事務局会議**（中旬） （１）４月の県新入生学調の分析・取組 （２）昨年度の諸検査結果の交流 （３）後の連携計画（案）の検討	構成メンバー：　（４名） 長内中主幹 長内小教務主任、小久慈小教務主任、長内中教務主任
７月	第２回**小中連携推進委員会**（中旬） （１）県新入生学調分析・取組（案）の検討 （２）今後の連携計画（案）の協議 夏休み中 長中部活見学（長小・小久慈小の児童が訪問）	構成メンバー：　（１０名） 長内小校長、小久慈小校長、長内中校長 長内小副校長、小久慈副小校長、長内中副校長 長内中主幹 長内小教務主任、小久慈小教務主任、長内中教務主任
８月	夏休み中 小学校陸上記録会支援（長中生が訪問）	
９月		
１０月		
１１月	第２回**小中連携推進事務局会議**（下旬） （１）本年度の成果と課題の検討 （２）次年度の連携推進計画の検討 （３）３学期推進計画（案）の検討	構成メンバー：　（４名） 長内中主幹 長内小教務主任、小久慈小教務主任、長内中教務主任
１２月	次年度の連携推進計画（案）の第１次提案	
１月	第３回**小中連携推進委員会**（中旬） （１）本年度の成果と課題の検討 （２）次年度の連携推進計画の検討 （３）３学期推進計画（案）の検討	構成メンバー：　（１０名） 長内小校長、小久慈小校長、長内中校長 長内小副校長、小久慈副小校長、長内中副校長 長内中主幹 長内小教務主任、小久慈小教務主任、長内中教務主任
２月	**第２回授業公開（２小が場年で実施）**と**総会**（上旬） （１）**授業参観** （２）推進テーマ・重点項目の総括協議 （４）**第２回教科部会** **小中交流事業** 長中授業見学（長小・小久慈小の児童が訪問） 生徒会執行部訪問（長小・小久慈小へ）	
３月	小中連絡会（春休み中） （１）　会議内容：　小６の情報提供 （２）　日程調整：　教務主任 （３）　運営責任：　中３と小６の学年長 （４）　メンバー：　中３学団、小６学団、生徒指導主事３名、保健主事３名	

長内中学区小中連携推進委員会
（１）　構成メンバー：　（１０名）
長内小校長、小久慈小校長、長内中校長、長内小副校長、小久慈副小校長、長内中副校長
長内中主幹、長内小教務主任、小久慈小教務主任、長内中教務主任
（２）　役割分担：　連携推進の運営：　事務局：　教務主任　・・・　日程調整、協議提案、資料作成
司会進行：　主幹
（３）　担当校：　５月の[illegible]・総会は、毎年長内中が担当する。
２[illegible]会は、隔年で長内小と小久慈小が担当する。
[illegible]会議は、第２回授業公開担当校が担当する。

小・中連携による三校交流体制をより充実させるために次年度以降の連携事業の基本構想案。

４月実施の「中学校新入生学調」の結果分析と取組を協議する場を設定することを考えている。

５月２４日に、三校全教員が本校に集まり、全学級の授業参観と各部会に分かれての共通取組と共通実践について協議した。


平成 28 年４月５日（火）
平成 28 年度の長内中学区三校交流事業実施要項
久慈市立長内中学校

１　目的
長内小学校、小久慈小学校、長内中学校の３校間で、**交流事業を通して**お互いの教育内容について**相互理解**を深めること、児童生徒の発達の段階を踏まえた適切な指導・支援を行うと同時に小中の円滑な接続（ジョイントアップ）を図るための**実践課題を把握し取り組む**ことで、児童生徒の健全育成を図る一助とする。

２　期日　　平成２８年５月２４日（火）　１３：３０　～１６：４５

３　場所　　長内中学校

４　日程
（１）受　付　　１３：３０　～　１３：４５　（生徒昇降口に受付設置）
授業参観前後の控室は、１階集会室となります。
（２）授業参観　　１３：５０　～　１４：４０　・・・　全１１学級授業公開
下校指導　　１４：４０　～　１４：５０
控室で休憩　　１４：４０　～　１５：００
（３）分科会　　１５：００　～　１６：１０　（１時間１０分）
第１分科会（学習指導分科会）　１階　集会室　・・・　助言者：　校長　（事前に分担確認
第２分科会（生徒指導分科会）　１階　会議室　・・・　助言者：　校長　をお願いいたし
第３分科会（特別支援分科会）　２階　Ｅ１組　・・・　助言者：　校長　ます。）
① 議題
学習指導・生徒指導上、今年度小中連携のもと３校が共通して取り組めることを決めたいと思います。
② 資料作成　・・・　７５部作成（３種類の資料を全員に配布）
ア　各教務主任は事前に打ち合わせを行い、第１分科会（学習指導分科会）用の資料を準備してください。
イ　各生徒指導主事は事前に打ち合わせを行い、第２分科会（生徒指導分科会）用の資料を準備してください。
ウ　各特支担コーディネーターは事前に打ち合わせを行い、第３分科会（特別支援分科会）用の資料を準備してください。
エ　作成した資料は、当日受付で配布できるように対応してください。
③ 次第　　＊ 司会と記録は長内中職員が行う。記録者は、全体会で５分程度報告をする。
ア　開会のことば
イ　出席者の自己紹介（授業の感想を含む）
ウ　協議（資料をもとに、実態把握・分析・検討を行い、**共通実践の分科会での決定**）
エ　助言者から（校長）
オ　閉会のことば

2　学習面での連携

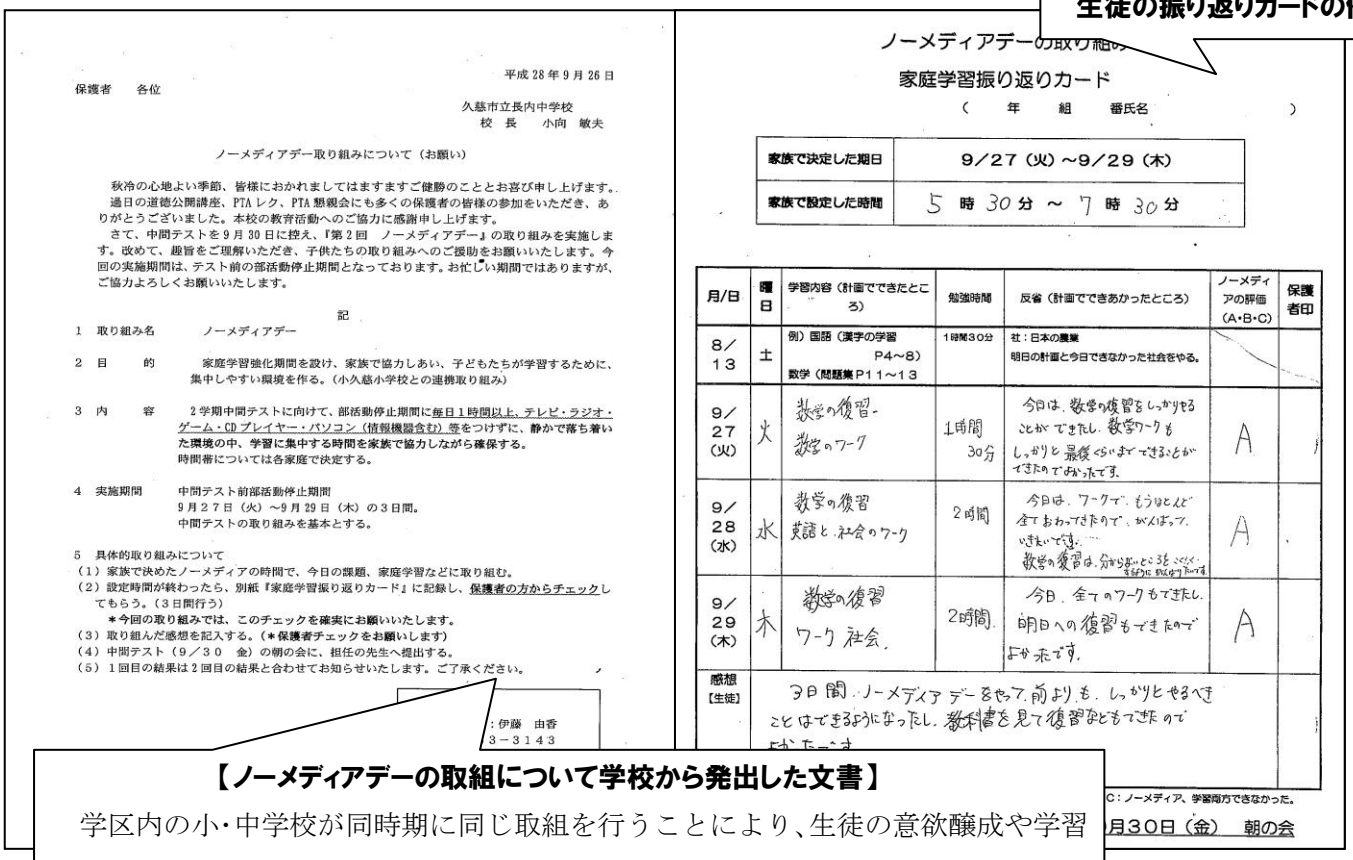
・「ノーメディアデー」の取組を小学校と連携して行った。

・授業交流を通した指導の強化に向けて、小学校への授業参観（数学・英語）を実施した。

・学習規律の共通取組や家庭学習について家庭への協力体制等について交流を行った。

・中学校新入生学調の分析を共有し、指導につなげるよう努めている。

生徒の振り返りカードの例



平成28年9月26日

保護者　各位

久慈市立長内中学校
校　長　小向　敏夫

ノーメディアデー取り組みについて（お願い）

秋冷の心地よい季節、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
過日の道徳公開講座、PTAレク、PTA懇親会にも多くの保護者の皆様の参加をいただき、ありがとうございました。本校の教育活動へのご協力に感謝申し上げます。
さて、中間テストを9月30日に控え、『第2回　ノーメディアデー』の取り組みを実施します。改めて、趣旨をご理解いただき、子供たちの取り組みへのご援助をお願いいたします。今回の実施期間は、テスト前の部活動停止期間となっております。お忙しい期間ではありますが、ご協力よろしくお願いいたします。

記

1　取り組み名　　ノーメディアデー

2　目　　的　　家庭学習強化期間を設け、家族で協力しあい、子どもたちが学習するために、集中しやすい環境を作る。（小久慈小学校との連携取り組み）

3　内　　容　　2学期中間テストに向けて、部活動停止期間に毎日1時間以上、テレビ・ラジオ・ゲーム・CDプレイヤー・パソコン（情報機器含む）等をつけずに、静かで落ち着いた環境の中、学習に集中する時間を家族で協力しながら確保する。
時間帯については各家庭で決定する。

4　実施期間　　中間テスト前部活動停止期間
9月27日（火）～9月29日（木）の3日間。
中間テストの取り組みを基本とする。

5　具体的取り組みについて
（1）家族で決めたノーメディアの時間で、今日の課題、家庭学習などに取り組む。
（2）設定時間が終わったら、別紙『家庭学習振り返りカード』に記録し、保護者の方からチェックしてもらう。（3日間行う）
＊今回の取り組みでは、このチェックを確実にお願いいたします。
（3）取り組んだ感想を記入する。（＊保護者チェックをお願いします）
（4）中間テスト（9／30　金）の朝の会に、担任の先生へ提出する。
（5）1回目の結果は2回目の結果と合わせてお知らせいたします。ご了承ください。

：伊藤　由香
3－3143

ノーメディアデーの取り組み

家庭学習振り返りカード

（　年　組　番氏名　）

家族で決定した期日	9／27（火）～9／29（木）
家族で設定した時間	5 時 30 分 ～ 7 時 30 分

月/日	曜日	学習内容（計画でできたところ）	勉強時間	反省（計画でできあかったところ）	ノーメディアの評価（A・B・C）	保護者印
8／13	土	例）国語（漢字の学習 P4～8） 数学（問題集P11～13	1時間30分	社：日本の農業 明日の計画と今日できなかった社会をやる。		
9／27（火）	火	数学の復習・ 数学のワーク	1時間30分	今日は、数学の復習をしっかりやることができたし、数学ワークもしっかりと最後までできることができたのでよかったです。	A	
9／28（水）	水	数学の復習 英語と社会のワーク	2時間	今日は、ワークで、もうひとと全ておわってきたので、がんばって、いきました。 数学の復習は、分からないところをくわしく復習に取り組んでいます。	A	
9／29（木）	木	数学の復習 ワーク 社会	2時間	今日、全てのワークもできたし、明日への復習もできたのでよかったです。	A	
感想【生徒】		3日間、ノーメディアデーをやって、前よりも、しっかりとやるべきことはできるようになったし、教科書を見て復習などもできたのでよかったです。				

C：ノーメディア、学習両方できなかった。

月30日（金）　朝の会

【ノーメディアデーの取組について学校から発出した文書】

学区内の小･中学校が同時期に同じ取組を行うことにより、生徒の意欲醸成や学習環境整備という面においても一体感が生まれ、保護者からも好評である。

【成果】

○　小・中連携による三校交流推進の核になる部分を組織的に見直し、活動が円滑になる準備を行うことができた。特に学習指導における学習規律の共通取組や家庭学習に関わる共通実践など、取組が強化された。また、中学校新入生学調の結果を小学校と共有することで、それぞれの指導課題を明らかにすることができ、授業改善につなげることができた。

○　目標を掲げて終わるのではなく、会議を持ったり、実践したりという具体的な行動を意識した活動を行うことができた。達成状況の検証をもとに、来年度のねらいを各学年の状況を踏まえて再検討する体制を構築することができた。

○　中２英語で「表現すること」を重点指導項目とし、自信を持って表現できる生徒の育成を目指してきた。中学１年生英語確認調査（CAN-DO テスト）と県学習定着度状況調査（中 2）の県比較では、全体の平均正答率でマイナスが０．７ポイント縮減し、「１５語以上で内容につながりのある英文を書くことができる。」の小問では、県比較でマイナスが１９．０ポイント縮減した。わずかではあるが、伸びが見られた。

○　質問紙調査「授業の内容がよく分かる」の肯定的回答の割合を、全教科７５％以上にすることを目標にしてきたが、社会科（８４％）と理科（７７％）でねらいを達成できた。社会では県平均を上回る結果であった。また、数学科での授業における個の評価では、「授業が分かる」という回答が増加の傾向にある。

○　結果としての大きな伸びは得られなかったが、定期テストなどでの無解答が減少する等の変化が見られるようになってきている。